

## ▼アレセンサカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】アレクチニブ塩酸塩 Alectinib Hydrochloride 【分類】抗悪性腫瘍薬 [キナーゼ阻害薬]

【単位】▼20mg・▼40mg/Cap

【常用量】600mg/日

【用法】1日2回

【透析患者への投与方法】設定されていないが、CL/Fと腎機能は関連しない(1) PKは通常と変化なく常用量にて適用できた症例(Park JE, et al: Thorac Cancer 2022 PMID: 35191596)

【保存期 CKD患者への投与方法】腎機能はCL/Fの関連因子ではない(1)

【特徴】未分化リンパ腫キナーゼ(ALK)の選択的阻害剤で、ALK融合遺伝子陽性の腫瘍細胞の増殖を抑制する。ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌に適用される。

【主な副作用・毒性】間質性肺炎、肝機能障害、好中球減少、消化管穿孔、血栓塞栓、味覚異常、頭痛、傾眠、便秘、歯周病、胃腸炎、徐脈、上気道感染、肺炎、貧血、発疹、爪障害、筋肉痛、関節痛、腎機能障害、血清Cre増加、倦怠感など多数

【安全性に関する情報】妊婦には禁忌(1) 主な副作用は白血球減少、CK上昇(McKeage K: Drugs 75: 75-82, 2015 PMID: 25428710)

【吸収】腸肝循環しない[ラット](1) 食後投与が望ましく、吸収には胃酸分泌抑制剤の影響を受けない(Morcos PN, et al: Clin Pharmacol Drug Dev 2017 PMID: 27545320)

【F】37%(1, Morcos PN, et al: Xenobiotica 2017 PMID: 27180975) 88.6%[ラット](1)

【tmax】2~6hr(1)

【代謝】主にCYP3A4[寄与率47%以上]により代謝され、主代謝物[M-4]を生成(1) その他、モルフォリン部の開環後、脱アルキル化した化合物が同定(1) 代謝物M-4には未変化体と同等の活性がある(1) 血中AUC比でM-4は未変化体の50%(1)

【排泄】尿中回収率0.5%でほとんど糞便中に回収(1) 尿中未変化体排泄率0.1%未満(1) 尿中回収率0.5%未満(Morcos PN, et al: Xenobiotica 2017 PMID: 27180975)

【CL/F】200±62.4L/hr [po](1) 34.5 L/hr (Morcos PN, et al: Xenobiotica 2017 PMID: 27180975) P-gp, BCRPの基質ではない(1)

【t1/2】20~40hr(1)

【蛋白結合率】99% [ほとんどAlb](1)

【Vd/F】5720±2320L/man [po](1) 475L/man (Morcos PN, et al: Xenobiotica 2017 PMID: 27180975)

【MW】519.08

【透析性】資料なし(1) ほとんど除去されないとされる(5)

【O/W係数】pH5以上では水相に分配されない(1)

【相互作用】P-gp, BCRPを阻害する(1) CYP3A4阻害剤、誘導剤との併用注意(1)

【肝障害患者での情報】高度肝障害患者では減量対象(Morcos PN, et al: J Clin Pharmacol 2018 PMID: 30052269)

【更新日】20240813

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。